

インドネシアにおける熱帯雨林の保全活動への支援を実施

富士通グループは、一般社団法人バードライフ・インターナショナル東京を通じて、インドネシア・スマトラ島の熱帯雨林「ハラパンの森」の保全活動を行う現地のNPO ブルーン・インドネシアへの支援を実施しました。

「ハラパンの森」はスマトラ島南部に位置し、東京都のおよそ半分の広さの広大な森林です。インドネシアで初めて生態系修復コンセッション制度 (Ecosystem Restoration Concession) (注 1)を活用したフィールドで、希少な生物が生息しており、商業伐採跡地に生じた二次林を従来の生態系に回復する活動が行われています。本活動は、森林の炭素固定源としての機能を高め、地球温暖化を抑制する上でも重要な意味を持っています。

現在、「ハラパンの森」では大規模な森林火災や違法伐採に対処することが喫緊の課題となっており、森林パトロールの実施や情報の集約には工数と時間を要するため、本来注力すべき森林再生に掛けるリソースが限られてきております。そこで当社グループは、パトロール作業の効率化を図るために、パトロールで得た現場の状況をその場で入力できる ICT 端末の購入のため 330 万円の寄付を行いました。



今後も当社グループは、森林の保全・再生活動を支援し、気候変動の緩和に貢献していきます。

(注)生態系修復コンセッション制度：非木材林産物の生産など、伐採を伴わない森林の使用権。

【プレスリリース】インドネシアにおける熱帯雨林の保全活動への支援を実施